
BOKKO

犬ガオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B O K K O

【Nコード】

N 7 4 9 6 S

【作者名】

犬ガオ

【あらすじ】

「あなたはアンドロイドなの!」「知ってる」

いちに(前書き)

リハビリ作。

ーアンドロイド称視点だとおもいねえ。

いちに

一

三年前の十二月二十四日。豪雪になるほどの寒い日。そんなクリスマスプレゼントは、父と母からの明るい告白だった。

「実はね、小守ちゃんはアンドロイドなの！　びっくりしたでしょ！」

「びっくりというか、やっぱりって感じ」

その返しは、ソファをひっくり返すくらいに両親を驚かせた、というか、ひっくり返した。しかし、私にとってはそんな両親（仮）の驚き方とかどうでもよくて、むしろ、私を憂鬱にさせるものだった。

こんな世の中に、アンドロイドだなんて、と。

二

二十年前、アンドロイド製造は禁止された。

当時の技術力は、人型の素体を作り、運用する位はできたらしいけど、アンドロイドにとって肝心な精神理解力、つまり人工知能を開発する技術が遅れていた。

そのため、人の心を理解出来ないアンドロイドが暴走するという事件が何度も起こり、アンドロイドは禁止された。

アンドロイドに代わって逆に勢力を伸ばしたのは、ただのロボットだった。しかも、人工無能なロボット。こちらがハイと答えろといえはハイと答えるし、いいえと答えるといえはいいえと答える、人に都合がいいロボット。人型ではなく、無機質な作業ロボットか、愛玩動物型のぬいぐるみタイプか、昔存在していた、携帯電話のよくなタイプもある。H S I、ヒューマンサポートインターフェイス

という素っ気ない言葉で呼ばれる彼らは、とても便利なロボットだ。使っている私でもそう思う。

そのH S Iのおかげで、私の真の父親とも言うべき、アンドロイドを生み出す技術は、意味のない物とされ、そのまま忘れ去られるはずだった。

なのに、それなのに、私の両親（仮）のおかげで、私は生まれてきてしまった。必要だったのか道楽なのかと聞くのが怖いけど、どっちかといえば、多分、道楽。

そう、全てはH S Iという人型じゃないロボットで済むんだから。アンドロイドの存在価値〃私の存在価値は、無いんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7496s/>

BOKKO

2011年10月7日10時42分発行